

《講演》



子どもから見た親の姿 いざこちのいい家庭とは

11月19日 13:30~17:00

豊川市勤労福祉会館第2研修室

主催：豊川男女共生ネットみらい

後援：豊川市 豊川市教育委員会

参加：23名

講師を囲む会参加：13名

講師：中田直助さん(アイチ・サドベリースクール)

1997年に、フリースクールのアイチ・サドベリースクールを開設した。それは、40年の歴史を持つ全米で一番有名なフリースクール(*)、『サドベリー・バレースクール』を訪れ、その教育のあり方に感銘を受けたことによる。

*フリースクール=自由な学校・自由に暮らしたい、自由に学びたい人のための学校。

(アメリカでは、学校形態のひとつとして認可されている。)

《フリースクール『サドベリー・バレースクール』について》

- ・ ポストン郊外の、森の中にある大きな屋敷が学校。
- ・ 5歳から18歳の子ども、200人が在籍。
- ・ カリキュラムなし、時間割なし、テストなし、成績なし、クラス分けなし、年齢区別なし、競争なし、いじめなし
- ・ 自分でやることをすべて自分で決め、何をしてもいい。(パソコン、楽器、TVゲーム、写真、ダンス、おしゃべり・・・)『遊び』の中から『学び』を身につけていく。
- ・ スタッフ10数名。スタッフは、見守る人。困っているとき適切なアドバイスをする人。
- ・ 自分のやりたいことを試行錯誤しながら追求する。(日本文化に興味を持ち、独学で日本語をマスターした生徒)
- ・ 「教えてほしい」という希望を抱いた時、スタッフに申し出る。スタッフが同じ要求の人を集め、グループで学び合うこともある。それにふさわしいスタッフが教える。
- ・ 学びたい欲求が強いので、マスターするスピードは速い。
(小1~小6の算数を週1回の授業で6ヶ月でマスター)
- ・ 子どもたちのつくったルールで学校運営されている。
(鍵なしのトイレ・ドアが閉まっていたら使用中というルールを全員が守り、トラブルはない。)
- ・ スタッフは1年契約。更新は、生徒・スタッフの全員が投票し、決める。
- ・ スタッフ、生徒の密な人間関係。(創立以来のスタッフ、『出会ったすべての子どもを覚えています。』)
- ・ 17、8歳で自分から「卒業したい」と宣言すると、生徒・スタッフで構成されている審査会で面接審査。「将来どうするか」「どういう社会貢献をするか」など、聞かれる。認められると「みんなに認められた」という『誇り』を持って卒業する。
- ・ 卒業生の多くは、全米で超一流の大学に進学、才能を発揮。多種多様な職業についている。

子どもに自由を与えれば、自主性が育ち能力を発揮する。日本の子どもが自由を与えられたことがないことは、今の子どもを取り巻く現状をみれば、明らか。日本は自由も平等もまだ初歩の段階。 講演内容は裏面ににつづく

アイチ・サドベリースクール

豊橋市大橋通3丁目17

0532-56-3133

子どもたちの、子どもたちによる、子どもたちのための学校です。

年齢：自分の意志で来たいと思う子どもたち。若者たちなら何歳でもOK。

月～金曜日(祭日は休み)9:30～16:30(時間内はいつでも)

強制的なことは一切ありません。自分のやりたいことを自由にできます。必要なときはスタッフが補助をします。

本人の希望により、次のような学習もできます。(小中高の英、数、国、理、社の各教科。高校卒業程度認定試験の各教科、センター試験、大学、専門学校の各入試科目)

自由参加の講座・心身リラックス運動、太極拳、護身術、社会見学、職業体験、旅行

中田直助講演会

参加者全員が親テストをし、それに基づいて講演されました。

講演後、講師を囲む会を行い、気づきのある中身の濃い話し合いができました。

親テスト

子どもに対して、これまであなたが取ってきた行動について尋ねます。

各問いについて、1～3の中から自分の取った行動に近いもの一つを選んで、○をつけてください。

習いごと（学習や運動など）をしたいと、子どもが言ってきた。

1. 何をやりたいのかを聞いて、しばらく様子を見た。
2. すぐに教えてくれる先生の所へ一緒に行った。
3. 子どもにとってどこが良いかを探してそこへ連れていった。

手が放せない仕事をしている時に、子どもが話しかけてきた。

1. 「忙しいから後で」と言ったら、子どもが後からは話をしなかつたので、そのままにしておいた。
2. 「忙しいから後で」と言ったら、子どもは忘れてしまったようなので、こちらから「なんだったの」と聞き出した。
3. 仕事をしながらあいつちをして聞いたけれど、しっかりは聞けなかつた。

子どもがいる所で、夫婦げんかが始まりそうになった。

1. 子どもの前ではけんかをしないように、自分を押さえて黙った。
2. 子どもの前でけんかをしてしまったが、後でどうしてけんかになったのかを話した。
3. 他のところでけんかをしたが、その後は子どもが心配しないように冷静にしていた。

子どもの部屋が汚くなっていたのを見つけた。

1. 黙ってきれいに掃除をしておいた。
2. 気になったが、そのままにしておいた。
3. 掃除をしてもよいかを聞いてから、掃除をした。

学校でいじめられたと、子どもが話してきた。

1. 子どもが話すことを黙って聞いたが、学校へはすぐには連絡しなかつた。
2. 誰にいじめられたかを聞き出して、対処してもらうようにすぐに学校へ連絡した。
3. いじめに負けられないように励ましながら、どうしたらよいか方法を教えた。



子どもから見た親の姿 いざこちのいい家庭とは

玄関の戸を緊張して開ける子どもがいる。
そのとき、親がいるいないは関係ない。
家庭の空気に居心地の悪さを感じている。

子どもの思いつきかもしれない。しばらく、様子を見たほうがいい。習いはじめると必ずやめたいと思う時がある。下手ならやめることができるが、上手で才能がありそうなリーダー的な子は、周囲の期待からやめたいと言えない。ストレスを持ちながら頑張ってしまう、(時に高校のスポーツ推薦を受けたり) 学校に行かなくなる。子どもが継続してやっていることを本当に楽しんでいるかを、親は日頃から気をつけ、話を聴くこと。

子どもは『そのとき、その場で聴いてほしい』という気持ちが強い。おかしなことを言っても話半分でもいいからその場で聴くこと。叱ったりするとその後言いたいことも言わなくなる。子どもは話の内容よりも話したいという気持ちを受けとめてもらえたことが嬉しい。子どもが大人になった時、互いに話が噛み合わないことがあるが、かつて親が子どもに一方的に自分の気持ちだけを話していたのではなかつただろうか。

子どもの前でけんかを見せないようにすれば、子どもにはわからないだろうと親は思っているが、子どもは知っている。学校を休みがちな子どもは、原因が他であっても自分が原因でけんかしていると思ってしまう。子どもに不安を与えないために、原因をはっきり話したほうがいい。

掃除ができないのは、子どもが他のことにこだわっているからと思つたほうがいい。部屋の様子は子どもの心の中そのもの。いくら怒っても何にもならない。何年かかかるかもしれないが、心が穏やかになった時、いずれきれいにする。そこまで待てるかどうか、親が試される。親が子どもをコントロールしようとする、子どもは精神的自立ができなくなる。

今、子どものいじめ自殺があいついで起こっている。それに対する学校の対応は悪いが、死ぬほど苦しい時、その子どもは親にちょっとでも話せなかつたか。子どもの言うことを聴かず、親が自分の意見だけを話していたのではないか。親に言う、よけいに状況が悪くなると思つたのではないか。まず、子どもの言うことをしっかりと受けとめてほしい。親のできることは、子どもを守ること。「安心して家にいなさい」と言ってほしい。一方、いじめるのはいじめなければストレスが解消できないから。学校はそこにメスを入れてほしい。

親テスト ~ 及び講演内容は、
次号みらい通信NO. 13に掲載